

FREE

ご自由にお持ちください。

No.837
2023 June

6

岐阜県の森林・林業

も り
森林のたより



News of the forest



白山白川郷ホワイトロードの開通（新施設）



●詳細は3ページをご覧ください



編集・発行 公益社団法人 岐阜県山林協会

E-mail sanrinag@quartz.ocn.ne.jp

<http://www.g-forestry.or.jp> (公社)岐阜県山林協会の情報をご覧ください。

開催日	行事名等	内容等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	場所
			申込(問合せ)先/TEL
7月6日(木)	狩猟免許試験 (網猟、第一種銃猟、 第二種銃猟)	狩猟免許取得のための試験を実施します。 ●時間：9：30～17：00 ●申込：6/1～6/15 ※事前に申請書類等の提出が必要です。 詳しくは右記にお問い合わせください。	飛騨・世界生活文化センター 各地域を所管する県事務所等、または環境生活政策課 TEL:058-272-8231
7月14日(金)	令和5年度 岐阜県森林研究所 「研究成果発表会」	●内容：岐阜県森林研究所で取り組んでいる森林管理や森林資源の活用に関する研究内容を紹介します ●時間：13：00～16:30(予定) ●参加料：無料 ●事前申込：6月中旬頃から当所ホームページにてお知らせします。	わかさ・プラザ 多目的ホール (岐阜県関市若草通2丁目1番地) 岐阜県森林研究所 (岐阜県美濃市曾代1128-1) TEL：0575-33-2585



目次 Contents

イベントカレンダー(一般向け) 2
 「白山白川郷ホワイトロード」が6月上旬開通予定 3
 水源林見学会参加者募集 3
 森林環境譲与税のお悩み相談は、地域森林管理支援センターへ 4
 治山・林道技術成果 5
 山の歳時記(214) ヤマウコギ 6
 山のまじまじ(188) 7
 金魚が消えた、ボケの始まり? 7
 ぎふ木遊館通信 8
 morinos プログラム紹介!! 9
 木の香るぎふの施設(123) 10
 JAにしみの垂井支店 10
 森林と人を活かす知恵(125) 11
 チームビルディングの初めの「ネームトス」 11
 県民協働による未利用材の搬出促進事業「10年間の歩み」 12
 「匠の国・岐阜県伝統建築家」に新たに3名を認定しました 12
 研究コーナー 13
 作業道における横断排水処理を確実にするための留意点 13
 普及コーナー 13
 ICT/IoTの活用による業務のシステム化について 14
 スマート林業通信(36) アシストスーツ体験会 15
 国有林の現場から(80) 15
 岐阜森林管理署長としての抱負 16
 山地災害防止キャンペーン 17
 林業者向けお知らせ 17
 市況 18



表紙●詳細は3ページをご覧ください。

「白山白川郷ホワイトロード」6月9日開通

白川村と石川県白山市を結ぶ山岳有料道路「白山白川郷ホワイトロード」は、6月9日に開通する予定です。白山の新緑と薫風を車窓から楽しめるほか、白川郷展望台駐車場で下車し「白川郷展望台」からの眺望や「ブナのごみち」を散策したり(約30分)、県境近くの三方岩駐車場からは三方岩岳への登山(片道50分)にチャレンジしたりすることもできます。「白川郷展望台」はバリアフリー化により新たに車椅子で展望台まで行くことができるようになりました。トイレもバリアフリー対応となっています。詳しい情報は、白山林道岐阜管理事務所にお尋ねいただくか、ホームページでご確認いただけます。

通行料金
 軽自動車 1,400円
 普通自動車 1,700円

電話でのお問い合わせ先
 白山林道岐阜管理事務所
 TEL/FAX 05769-6-1664
<https://hs-whiteroad.jp/>



新緑のホワイトロード



令和4年度完成展望台周辺設備



白川郷展望台駐車場にある蓮如茶屋ではコーヒーやカレーを販売しております。



【森林保全課 水源林保全係】

水源林見学会参加者募集

参加者から毎回大好評をいただいている「水源林見学会」が、4年ぶりに開催されます。この見学会は、公益社団法人木曾三川水源造成公社^{*1}主催によるもので、木曾三川(木曾川、長良川及び揖斐川)流域の愛知、岐阜、三重にお住まいの方を対象として、水源となる森林の大切さを理解していただくための森の健康診断や水源林を守るための間伐体験をしていただくイベントとなっております。夏の思い出づくりにぜひご参加ください。

- 【開催日】 令和5年8月5日(土)
- 【場所】 岐阜県中津川市の水源林
- 【日程】 8時：JR岐阜駅中央北口に各自集合、貸切バスで現地へ移動
 10時～15時：現地での体験イベント
 17時頃：JR岐阜駅に到着・解散予定
- 【参加対象】 愛知、岐阜、三重県内にお住まいの小学生とその保護者(保護者同伴。40名程度)
 応募者多数の場合は抽選(応募者全員に抽選結果をお知らせします。)
- 【活動内容】 森の健康診断、山仕事(間伐)体験等
 ・生えている木を実際に伐っていただきます。
 ・雨天の場合は、木工教室に変更予定です。
 ・作業ができる服装でご参加ください。
 ・熱中症対策のため、タオル、飲料水等をご持参ください。
- 【参加費】 無料(昼食提供あり)
- 【応募方法】 はがき又はEメールに住所、参加者全員の氏名、ふりがな、年齢、生年月日、性別、電話番号を明記のうえ応募
 なお、新型コロナウイルス感染症の状況によっては中止等ありますことをご承知願います。
- 【応募期間】 7月14日(金)必着



お申込み、お問い合わせは、公益社団法人木曾三川水源造成公社までお願いします。
 【住所】 〒501-3756 美濃市生櫛1612-2 中濃総合庁舎5階 【電話番号】 0575-33-4011(内線408)
 【ホームページ】 <http://www.kiso3sen.org/> 【Eメール】 desk@kiso3sen.org

^{*1} 木曾三川水源造成公社とは岐阜県、愛知県、三重県、名古屋市等が出資して設立された公益社団法人です

【森林保全課 水源林保全係】

森林環境譲与税のお悩み相談は、 地域森林管理支援センターへ

第4弾

～センターは、外部評価により日々進化していきます！～

地域森林管理支援センター長 荻巣 雅俊

国連の「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」は、地球温暖化に関する最新の研究成果をまとめた第6次評価報告書「統合報告書」を公表しました。再植林の推進や木材製品の利用などが二酸化炭素(CO₂)の削減に有効であると明記されました。9年ぶりに作成された「統合報告書」は、世界各国の政策形成や国際交渉に強い影響力を及ぼすと言われていきます。改めて、森林・林業分野で温暖化対策を進めることの重要性、中でも、私有林の未整備林の解消を目指す森林経営管理制度が大きな役割を担っていくことを認識させられました。

地域森林管理センター(以下、センターという)では、県内の実務有識者から成る評価委員会(表1)を設置して、事業内容の評価はもとより、改善点や今後の課題の洗い出しを行い、今後の取り組みに役立てています。令和4年度の評価委員会は、1回目が5月30日、2回目が9月16日、3回目が2月28日に開催しました。

令和4年度の事業評価

令和4年度は、意向調査4,000ha以上という野心的な目標をかかげ、市町村の担当者へ初任者研修と実践型研修を二段階に分けて実施したほか、弁護士等の専門家への相談会、市町村への巡回支援等を実施しました。

表2が、各市町村の計画とその実績です。ほぼ達成できていると委員から評価を頂きました。特に、大きな目標であった意向調査達成面積は、目標の4,000haを超える5,200ha余を達成できました。これも、市町村担当者や林政アドバイザー等の関係者のご尽力のおかげです。また、県によると、令和元年度から令和3年度までの森林環境譲与税の活用率は、約7割でしたが、令和4年度末では、8割を超えると見込まれており、全国平均も上回るとみられています。

評価委員からは、市町村担当者への研修は、細かく地道な改善の継続が必要なことやTPOに合わせて、対面とオンラインを使い分ける必要がある等の助言がありました。

新たな課題(意向調査のその次は・・・)

現場からは、「意向調査がスムーズに進んでも、次の段階の境界の明確化に入っていくと、やってもらえる人がいない。」という嘆きがよく聞かれるようになりました。評価委員会からも、「森林の境界の明確化の支援をセンターがすべき。」との意見がありました。現在、民地の境界を明確にする取り組みとして地籍調査がありますが、岐阜県はその進捗率は18%程度と低く、毎年の実施面積も予算の関係から多くありません。意向調査で明らかとなった膨大な未整備森林の境界を明確化するためには、森林環境譲与税等を活用して、地域の実情に沿った地籍調査のような取り組みを創り、進めることが必要です。令和5年度のセンターの目玉事業として、市町村が未整備森林の境界の明確化に取り組めるよう専門家やシンクタンクと協力してモデル事業を構築し、市町村を支援してまいります。

表1 2022.4.25就任(50音順、役職は就任時)

役職	構成員名
恵那市森林組合 総務課長	足立 健二
国立大学法人東海大学機構岐阜大学 准教授	石田 仁
岐阜県林政部森林活用推進課森林吸収源対策室 技術課長補佐兼森林吸収源対策係長	川畑佳代子
岐阜県地域森林監理士	八賀 光弘
郡上市役所 農林水産部 林務課長	和田 透



評価委員会の様子

表2 ※支援センター調べ

森林経営管理制度の令和4年度計画・実績		
区分	計画	実績(見込み)
意向調査	4,158.89ha	5,244.13ha
集積計画	315.62ha	332.14ha
森林整備(間伐等)	884.94ha	698.21ha



森林経営管理制度や
森林環境譲与税に関する
お悩み相談は？

「地域森林管理支援センター」まで

TEL:058-201-5013 FAX:058-275-4398 E-mail: f-shien@g-moriren.or.jp
〒500-8356 岐阜市六条江東2丁目5番6号 岐阜県森林組合連合会内

治山・林道技術成果

治山、林道の各研究会では、日頃の業務で直面する課題について、調査・研究等の取り組みを行っています。令和5年2月に行われた発表会で発表された取り組み成果を紹介します。

岐阜市鶯谷地区の災害対応について

県庁・岐阜ワーキンググループ 発表者 畑中 慎・小山凌平
(ワーキンググループメンバー) 梶浦隆司、白井康二、後藤謙宜

はじめに

令和4年8月25日の集中豪雨により岐阜市鶯谷地区において、山腹崩壊が発生しました。崩壊土砂は、下方の私立鶯谷中学・高等学校の敷地と一般県道岐阜各務原線に流出しましたが、夜



位置図



災害発生時

間であったことから在校生徒はおらず人的被害が無かったことは幸運でした。

現在は(R5・4)、災害関連緊急治山事業により順調に復旧工事を進めています。豪雨災害の激甚化、頻発化にあるなか、今回の経験を生かす必要

があると考え、ワーキンググループ内の課題とし、治山技術成果発表会の場で情報共有を図ることとしました。

災害直後の対応

被災直後の現地調査では、山腹崩壊地から発生した土砂が一次谷を流送する際に渓岸を侵食しており、次期豪雨による二次災害が懸念されました。

このため、「応急対策工事」、「県道の通行規制」、「学校の避難連絡体制の構築」、「災害関連緊急治山の申請」、「許認可申請」について、通常事業では考えられないスピードで複数の課題を同時処理する必要があります。

岐阜農林事務所では、「災害時における治山施設の応援協力に関する地区協定」に基づき岐阜土木工業会に応援協力を要請し、土砂流出防止ネットを設置しました。更に、山中に残存する土砂や流木の除去を、隣接箇所の治山工事と調整し変更契約で実施しました。その際、作業スペースが極めて狭隘であったため、非常に難航しましたが、強力吸引車や小型重機を導入するなど現場の工夫により、16日間で完了させました。

また、岐阜市役所の協力で、崩壊面にブルーシートを設置するとともに、上部市道からの流水を防ぐ土のうを設置し、土砂流出に備えました。

防災体制の構築

恒久対策は、災害関連緊急治山事業等の採択を受け実施することとなりましたが、これらの工事が完成するまでの安全を確保するため、岐阜土木事務所から雨量計を供出していただき、現場に設置しました。雨量設定した基準値(時間雨量、日雨量)を超過した場合には、その情報が関係者にメール配信され、「県道の通行規制」岐阜市へ避難行動の助言を行う防災体制を構築しました。学校では、避難誘導の目安とし、被災した建物から離れるなど対策を行っています。

今後の課題

今回の災害では、防災体制等に関する知識が乏しく、他部局との協議に時間を要したことや、資材の保管先を知らなかったことにより、スムーズな対応ができませんでした。そのため、防災体制の構築について、日頃から検討しておく必要を強く感じました。

鶯谷地区で行った災害対応については、現地研修などを通じ、治山職員の理解を深めていきたいと考えています。

●詳しい内容を知りたい方は

TEL058-2114-7406

岐阜農林事務所まで



文：樹木医・日本森林インストラクター協会 理事 川尻 秀樹

これは俗にいわれるウコギですね。薄暗い溪流沿いでヤマウコギを見つけた人に説明しました。

ウコギと呼ばれるのは主に中国原産のヒメウコギ (*Acanthopanax sieboldianus*) ですが、地域によってはヤマウコギ (*Acanthopanax spinosus*) を指しています。

ウコギ科植物には他にエゾウコギ (*Acanthopanax senticosus*) やタラノキ (*Aralia elata*)、トチバニンジン (*Panax japonicus*) など、日本には約30種が分布しています。

ヒメウコギは中国では古くからを唐音で「五加(ウコ)」と呼び、日本ではそれに「木」をつけて五加木(ウコギ)と呼ぶようになりました。

日本最古の本草書『本草和名(918年)』にも五加木が記されていることから、相当古い時代に日本に渡来してきたことが裏付けられます。また、平安中期に編纂された『延喜式(927年)』に、ウコギの皮(樹皮、根皮)が「五加」の名で薬として朝廷に献上された記述があり、美濃の国(現在の岐阜県)が産地でもあると記されています。

江戸時代初期の『清良記(1629〜76年)』には、四月野菜に五加の名があり、葉を食したことがうかがわれます。また貝原益軒の『大和本草(1709年)』にもウコギを食用やお茶にしたことや、五加皮酒についても記されています。

ヒメウコギは仏教と共に、薬用として伝来したと考えられており、

日本のヒメウコギは大部分が雌株(二説には雌株しかない)で、ヤマウコギやエゾウコギに比べてトゲが少なく、葉も軟らかいため食用に適しています。山形県米沢市にはヒメウコギの生垣が多く見られましたが、これは財政難の米沢藩を再建させた上杉鷹山が、飢饉の食料源として奨励した名残と言われています。

さて岐阜県で見られるヤマウコギは雌雄異株で、高さ2〜5m、8月頃に黒熟する果実をつけます。ヤマウコギはトゲが鋭いため、戦国時代には敵の侵入を防ぐ目的で屋敷の垣根に盛んに植えられました。

一般的に緑黄色野菜はゆでたり、電子レンジで加熱すると、ビタミン成分が生より少なくなったり、壊れて流れ出たりしますが、ウコギは変質しづらいとされます。

最後に、日本では北海道にしか分布しないエゾウコ



▲新芽が美しいヤマウコギ

ギ(雌雄同株)は、シリガレジンールという成分を含んでおり、動物で脳細胞を若返らせ、記憶力を高める効果が実験で確かめられています。このエゾウコギの抽出エキスをモスクワオリンピックの旧ソ連選手が投与されていたことは有名で、1998年1月9日の日刊スポーツには、アジア大会などで金メダルを取ったマラソンの李ポインジュ選手、重量挙げの金テヒョン選手が「五加皮エキス」を服用していたと記されているほど、効果が認められているのです。



山のおじゃまむし



—金魚が消えた、ボケの始まり?—【第383回】

自然学総合研究所 野平 照雄 ● Teruo Nohira

令和5年4月9日。この日は狐につままれたようなことが起き、私にとっては忘れられない日となった。その経緯。私の日課の一つが金魚の餌やり。何年も続いている。水槽に近づくと金魚が集まる。「早く餌をくれ」と口をパクパク。この姿が愛らしい。我が子のような感じだ。ところがこの日の午前11時。金魚がいない。パクパク口を開けて集まってこない。一瞬「また、アライグマにやられた」と思った。今までに何回も悲惨な目にあっているからである。しかし、その形跡は全く見られない。水槽の上に置いている金網の蓋がそのままなのである。「どこへ行ったのか」。私は気が動転するというか頭の中が真っ白になってしまった。何回も水槽を覗いたがいなかった。気落ちするまま散歩に出かけた。しかし、歩くだけ。いつものように虫を観察する気にはなれなかった。帰宅後、すぐに水槽をみた。やはり金魚はいない。「なぜだ」と首をかしげた時、「これは盗まれたのだ。そうに違いない」と思った。盗んで、そのあと蓋を戻せるのは人間しかいないからである。

× × × ×

このことを女房に話した。「またアライグマ」と語気を強めた。今までに何回もひどい目にあっているからである。しかし、今回は盗まれたかも知れないのだと、その状況を話した。「金魚泥棒！」と驚いた後「泥棒がいるなんて怖い町だね」と女房。金魚から泥棒の話へ。そして家の戸締りは今以上に厳重にすることになった。さらに女房は念を押すためか「寝るときは窓のシャッターを下ろし、留守にするとときは玄関の鍵は忘れないこと」と私に何回も言った。この時、隣に住んでいる娘が遊びに来たので、このことを話した。すると娘は大笑いして、「蓋はしてあるのに、金魚がいない。そんな馬鹿なことがあるはずがない」と言って、金魚を見に行ったら。すぐに戻ってきて「金魚は元気だよ」。「え！金魚が生きている。それ本当か」と何回も聞き直した。金魚は確かにいた。20cm以上の大きな金魚が口をパクパクあけていたのだ。ほっとした。体が楽になった。「3時間前はいなかったのに、今は元気に泳いでいるおかしな話だ」と娘に言うと「それはお父さんが夢を見ていたのよ。そうでなければボケが始まったのではないの。気をつけてよ」。さらに女房は「ボケ始めたのなら心配だね。酒の飲みすぎではないの。晩酌を止め



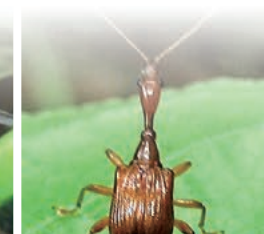
たら」と。この言葉で大事件？は終了。笑い話で終わってしまった。しかし、私は納得できなかった。金魚がいなかったのだから。

× × × ×

私が金魚を飼い始めたのは20数年前。近所の人から金魚の子供を9匹いただいたからである。バケツくらいの瓶で飼い始めた。成長は早く2年後には卵を産み始めた。その子供に卵を産ませる。この繰り返しで金魚は増えていく。育てる容器も土木工用用の大きなプラスチックにかえた。年々金魚は増えていった。しかし、死亡する金魚も多かった。生き残るのは20%くらい。そんな感じであった。孫たちも小学生になると興味をもちはじめ、一緒に観察したり餌を与えたりした。時には手にして肌を触っていた。この動作の一つひとつが愛らしく、心が和んだ。ある日思いもしないことが起きた。アライグマに襲われ、たくさんの金魚が食べられたのである。無残な光景であった。孫たちは「可哀そう」と言って泣き出すものもいた。ところが孫たちは進級するごとに金魚への興味が薄れていった。金魚では友達ができないからである。今までにアライグマには3回襲われた。しかし、別の水槽に金魚がいたので飼育は続けられた。それが2年前に業者に家屋の外構工事をしてもらった。これが原因だと思われるが大量の金魚が死亡し、12匹になってしまった。そして今年は6匹になってしまった。

× × × ×

この6匹は20数年前に飼い始めた9匹の金魚の子孫だ。絶やすわけにはいかない。「無事卵を産んでくれ」と祈るばかりである。一方、私は5月に80歳になる。たくさん飼うには体力的にきついので水槽は1個にすることにした。水槽や飼育道具などを処分していると、在りし日の金魚のことを思い出し懐かしくなった。「歳なんだなー」とつくづく感じる。4月22日、いつものように金魚の餌やり。ところが金魚がいない。水槽中央部にある酸素エアープンプの近くにいないのである。あの日と同じ光景だったのでよさがしたら、すべての金魚が壁の近くにいたのである。あの時の原因は「これだったのか」と笑えてきた。水槽の色は濃い緑色。水が澄んでいれば金魚はよくわかるのだが、この日は濁っていて水槽と同じような色。見落としてしまったのである。このことを女房と娘に話した。「ふーん」と二人とも無関心。だけど私にとっては忘れることのできない出来事。原稿の最後の部分を書き直すことにした。しかし、締め切り日には間に合いそうもない。担当者にお願ひに行かなければ。



ぎふ木遊館通信

木育ひろば上空を鯉のぼりが泳ぎました！

ぎふ木遊館のギャラリーでは、県内各地の「ぎふ木育」の取組や、その背景となる自然を紹介するギャラリー企画展を開催しています。

4月11日から5月7日まで「郡上市展」を開催しました。

郡上市では、新生児に市内産の木のおもちゃのカタログギフトをプレゼントする事業を実施しており、その対象のおもちゃを展示して来館者に触れてもらいました。カタログには、郡上市内のおもちゃ製造事業者の写真や想い、実際に使用したお母さんのレビューなどが掲載されており、木の温かみとともに、人の温かみも感じられる取組です。

また、市の重要無形文化財に指定されている「郡上本染」の展示（協力：郡上本染渡辺染物店）により「ジャパンブルー」と評される藍色が館内を彩りました。木育ひろばの天井には、郡上の冬の風物詩、清流吉田川での寒ざらして色鮮やかに仕立てられた郡上本染の鯉のぼりが設置され、来館する子どもたちの端午の節句をお祝いしました。



鯉のぼりが泳ぐ木育ひろば



郡上市の新生児に贈られる木のおもちゃ等を展示



郡上本染渡辺染物店の美しい藍染めが並ぶギャラリー





やがてみんなの森になる

morinos

プログラム紹介!!

岐阜県立森林文化アカデミー内にある森林総合教育センター（愛称 morinos）で実施している連携プログラムについてご紹介します！

<第19回 川と山のぎふ 自然体験活動の集い～鼻をつかえば世界が変わる!～ を開催しました>

morinosでは、森に親しむ入口となる様々なプログラムを開催しています。今回ご紹介するのは連携プログラムのひとつ、「川と山のぎふ 自然体験活動の集い」です。

豊かな川と山を舞台に自然体験、エコツアー、アウトドア、音楽、アート、農、パーマカルチャー、食、歴史、伝統、地域活性、暮らし、コミュニティビジネスなどなど、県内を主な舞台に様々な切り口で活動する人たちが集い交流しながら、いろんなものを生み出してきた「川と山のぎふ 自然体験活動の集い」。今年で19回目の開催となりました。

今年のテーマは【におい】。

「におい」をテーマに多種多様な現場やフィールドから人が集い、分科会を通して交流したり、互いの技術やアイデアを交換したり、はたまたライブで混ぜ合わせたりと。いろいろな方法で、鼻から自然を楽しみました。

今回はたくさんの企画の中から一部をご紹介します。



【ハーブの石けんづくり】

自分の好きなハーブの香りを選んで、オリジナル石けんを作りました。



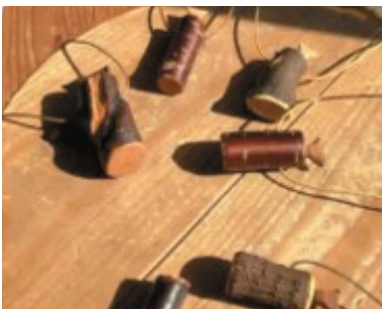
【森のアロマスプレーづくり】

morinos周辺の植物を採取し、自分だけのオリジナル森のアロマスプレーをつくりました。



【カメムシをあえて嗅いでみよう】

カメムシはどうしてにおいを出すのか、どこから出ているのかなど、見て、触って、嗅いで体感しました。



【森のアロマペンダントづくり】

枝を選んだら穴をあけ、木曾ヒノキなどの香りを閉じ込め、自分だけのオリジナルペンダントを完成させました。



【ネイチャーゲーム「クンクンしたらハッピーラッキー」】

心と体をゆるめてゆっくり散歩。嗅覚アップして<香りのビンゴ>で楽しみました。



【信長の薬草再生プロジェクト】

薬草のワークショップを企画運営している小寺さんが、薬草の香りや薬用有用樹木について解説されました。

当日はあいにくの雨模様ではありましたが、178人の方が「におい」の体験をするために訪れてくださいました。

「におい」がテーマということもあり、普段あまり意識して使わない「鼻」を使って楽しむ1日となりました。今回の体験が、「におい」から自然を楽しむきっかけになると嬉しいです。

こうした体験はmorinosのHPで開催をお知らせしています。多くの皆様のご参加をお待ちしております。興味を持ってくださった方は、morinosのホームページ、動画YouTubeをご覧ください。

ホームページ <https://morinos.net>

開所時間 10:00~16:00

YouTube 検索「morinosチャンネル」

定休日 毎週火・水曜日



morinosHP



YouTube
「morinosチャンネル」

JAにしみの垂井支店

不破郡垂井町東神田2丁目98番地



施設全景

施設概要

事業年度	令和4年度
事業主体	西美濃農業協同組合
構造 延床面積	鉄骨造 平屋建 1,603㎡
施設用途	店舗・事務所・会議室
木材使用量 使用樹種	7.55㎡ スギ
全体事業費	369,600千円
助成額	3,165千円(県産材需要拡大施設等整備事業)
設計者	全農岐阜一級建築士事務所
施工業者	株式会社 大橋組
工期	令和4年3月3日～令和4年12月14日

施設の経緯

JAにしみの、大垣市・海津市・養老町・垂井町・関ヶ原町・神戸町・安八町・輪之内町を事業エリアとしており、このたび、垂井町内の7支店を一か所に集約した新店舗を建設いたしました。

店舗内装には岐阜県産スギ材をふんだんに使用し、利用者に親しんでいただける店舗づくりを目指しました。

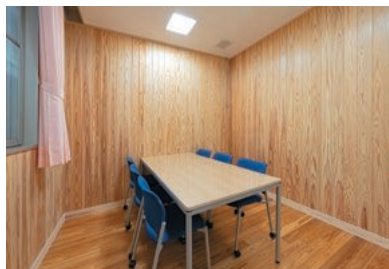


ATMコーナー



来店者待合

相談室



ここに注目!!

待合や会議室だけでなく、相談室にも県産材を使用しており、落ち着いた雰囲気の中でご相談いただけます。

利用者の様子

店舗内に段差がなく歩きやすい、木の香りが漂っており、安らぐ、とのお言葉をいただいております。



会議室



■問い合わせ先
JAにしみの本店 管財課
TEL 0584-73-8196



チームビルディングのプログラム「ヘリウムリング」。10人程度で輪になり全員の人差し指だけを使ってフラフープを地面まで下ろすという課題解決を目指す。やってみるとなかなか難しく、課題を解決するプロセスで様々な気付きがある。

●チームビルディングが気になる！
森林文化アカデミーの教員になって二年が経ちました。前職では、主に都市部の公園緑地において環境教育や公園管理に携わってきたのですが、アカデミーで自身のあり方を問い直し、日々、新鮮な気持ちで学生と共に学んでいます。
そんな中で、私の周りで頻出してきたキーワードとして「チームビルディング」があります。チームビルディングに関する授業や研修の一部を担当させていただくこともあり、現在、気になるワードの上位にランキングし続けています。

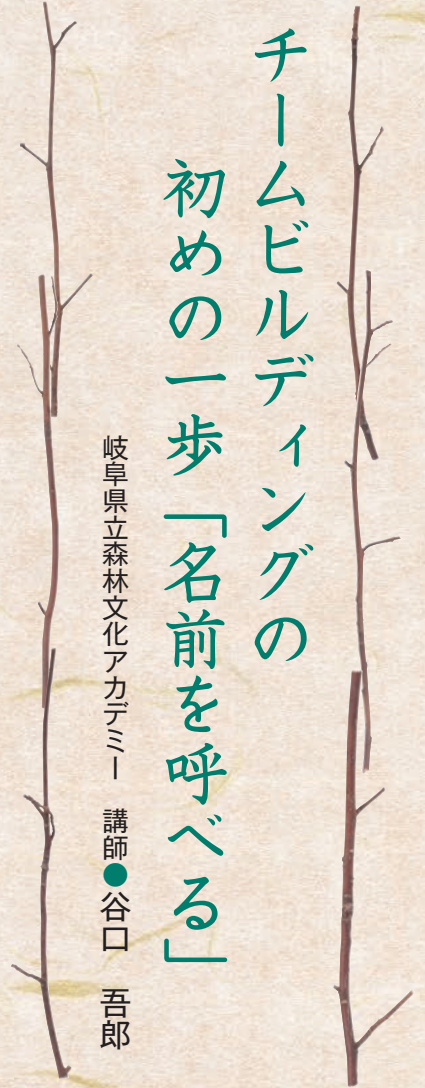
●あの人の名前を呼べてる？
ところで皆さんは身の回りの人の名前を気持ちよく呼べてますか？実は私は名前を覚えるのも呼ぶのも苦手で…。「あっ、ちよっといい？」とか呼んだりしてしまっ



仲間同士の呼び名を覚えるゲーム「ネームトス」。互いの緊張を解く「アイスブレイク」の効果がある。またボールのやり取りをコミュニケーションの言葉のやり取りと置き換えたとき、投げ方、受け止め方を考えるきっかけにもなる。

●チームビルディングってなに？
調べてみると、チームのメンバーがそれぞれの長所や特技・能力を十分に生かし、チーム全体で目標を達成できる関係づくりの取り組みのようです。
森林や地域社会が抱える課題の多くも、一人では解決できないことばかり。さまざまな立場の人、さまざまな得意分野を持つ人と協力しながら根気よく課題解決に臨む必要があります。そうしたことを推し進めたり、自分たちを客観的に把握する意味でもチームビルディングは有効そうです。

●名前を呼び合うゲーム「ネームトス」
最近、チームビルディングに関する研修に参加することがあるのですが、研修の初



チームビルディングの 初めの一步「名前を呼べる」

岐阜県立森林文化アカデミー 講師 ● 谷口 吾郎

ことがよくあります。思い出せないときは、誰かがその人を呼ぶのを待った後で、さりげなく名前を呼ぶとか、ときどきやっちゃいます。ときには、名前を呼ぶ必要がないことを願って時を過ごすことも…。とても後味の悪い時間になりますね。そんな経験ありませんか。

期の段階で「名前を呼び合うプログラム「ネームトス」」を行うことが多いです。まず参加者十人くらいで円になり、それぞれが「自分の呼ばれたい呼び名」を皆に伝えます。その後誰かが柔らかいボールなど持って、そのボールを、好きな人に向かって呼び名を呼びながら丁寧に投げ渡します。これをどんどん繰り返していきます。慣れてきたら徐々にボール数を増やしたりして難易度を上げていきます。このネームトスを行うと、一気に参加者の名前が覚えられ、参加者同士の関係性の距離が縮む感じがするんです。お互いの名前を覚えていて呼び合える、心理的に安全なグループの第一歩ですよ。また、「呼ばれたい名で」ってところが大切です。名前ってとても大事なもので、その人の呼び名を大事にするってことは、その人自身を大事にすることにつながります。

私も、アカデミー入学生の交流会などで、ネームトスを何度かやってみたところ、その後のグループ内のコミュニケーション量が増え、笑顔で和やかに会話をしている雰囲気になりました。すごく大切なことだなあと感じました。

これからの季節、森や川など野外活動も増えると、いろんな危険も伴いますね。ちよっとした声掛けの躊躇が事故につながります。当たり前のことだけど、普段から気軽に呼び合える関係性が大事になってきます。

チームビルディングの奥はまだ深いです。まずは、出会った仲間とお互いの名をしっかりと呼び合える関係性を作りたいですね。

県民協働による未利用材の搬出促進事業 10年間の歩み

平成24年からスタートした「県民協働による未利用材の搬出促進事業」のこれまでの経過について紹介します。

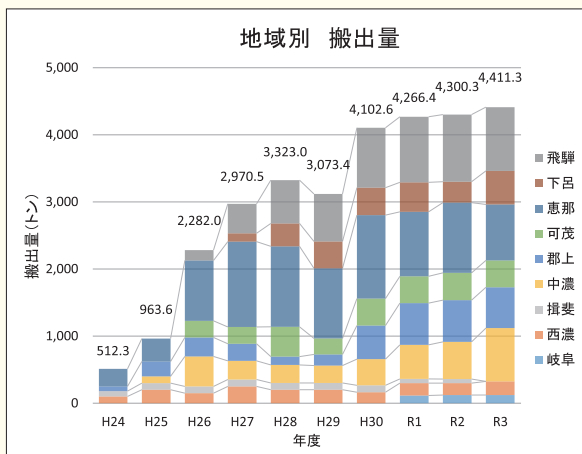
当事業では、間伐等に伴い生じる未利用材の有効利用、豪雨時における流木災害の防止を目的に、市町村・地域住民等が一体となった未利用材の搬出活動を支援しています。

事業を開始した当初5年間は、搬出量の目標値20,000tに対して、10,051tと低調な活動状況となっていました。しかしながら、実際に搬出活動を行った団体からは、事業を評価する声が非常に高く、事業の必要性に言及する意見が多くありました。

そのため、より参画しやすい事業とするため、補助対象期間の拡充、搬出機械・安全具を購入するメニューの追加、研修会の開催等、より活用しやすい制度となるよう努めてきました。

その結果、その後の5年間で、搬出量20,154tと、当初5年間の2倍以上となり、活動地域も県内全域に広がりました。

その一方で、近年は活動者の高齢化等により活動人数・活動団体数が縮小傾向にあります。また、



アンケート調査においても、活動で困った点として、活動参加者の確保が最も高い回答率となっており、各地域での活動の継続が今後の課題です。

今後も、参画しやすい事業として、未利用材の搬出の維持・拡大をしていくために、制度の改善を行っていきます。



【県産材流通課 鍋倉 賢二】

「匠の国・岐阜県伝統建築家」に新たに3名を認定しました。

県では、木造軸組構法*などの伝統的な木造建築について、特に卓越した技能、知識、経験を有し、後継者の育成に多大な実績のある建築大工技能士を、「匠の国・岐阜県伝統建築家」として認定し、技能の継承と社会的評価の向上に努めています。

令和4年度は新たに3名の方を認定し、平成元年度からこれまでの認定者は431名となりました。

認定された方々のますますのご活躍をお祈りいたします。

なお、認定者一覧については、県産材流通課のホームページにも掲載しています。

(※) 構造体が柱や梁などの軸材で構成される建築技法

【県産材流通課 中山潤】

令和4年度「匠の国・岐阜県伝統建築家」認定者



かたぎり ふみお
片桐 文雄 (郡上市)



ふるいわけ みのり
古池 三徳 (郡上市)



さとう よしひで
佐藤 禎英 (郡上市)

※敬称略 認定番号順

作業道における横断排水処理を 確実にを行うための留意点

「冊子「壊れにくい道づくりのための森林作業道作設の手引き」改訂版より」

森林研究所 ● 和多田 友宏

はじめに

森林作業道は、間伐をはじめとする森林整備、木材の集積・搬出のため継続的に用いられる道であり、地形に沿うことで作設費用を抑えつつ、繰り返しの使用に耐える丈夫で簡易なものであることが必要です。これを踏まえ、「岐阜県森林作業道作設指針」では、路体は堅固な土構造によることを基本としています。

しかし、岐阜県内の森林は30度以上の急傾斜地や脆弱な地盤など森林作業道の作設が困難な場所も多く存在します。このため、当所では丈夫で簡易な森林作業道を作設する上で考慮すべき内容をまとめた冊子「壊れにくい道づくりのための森林作業道作設の手引き」を2017年度に作成し、県内の林業事業者等に広く利用していただいています。

その後の当所の研究により、壊れにくい森林作業道作設のためには、土構造を基本としながらも構造物の

設置を検討すべきケースがあることや、横断排水施設での確実な排水のために必要な数値基準等が明らかになりました。これらの研究成果を取りまとめ、冊子「壊れにくい道づくりのための森林作業道作設の手引き」を改訂しました。

今回は、改訂した内容のうち、土構造の横断排水処理における確実な排水のための留意点を紹介します。

土構造の横断排水処理の留意点

路面に凹凸部分を形成する土構造の横断排水施設の最適な規格を検討するため、既設の森林作業道において、図1のとおり、縦断勾配(度)、集水区間距離(m)、排水施設高低差(cm)、越流(路面水が排水施設を乗り越えて下流へ流れること)の有無等を確認しました。その結果、岐阜県森林作業道作設指針において基本とされている平均縦断勾配10度以下の箇所については、集水区間距離が40m以下では集水

区間距離に比例した排水施設高低差以上の排水施設では、越流が見られませんでした(図2)。

この結果から、縦断勾配10度以下の土構造の横断排水施設について、集水区間距離に応じた排水施設作設方法(案)を提示しました(図3)。ただし、排水施設高低差の最大値25cmは、作設方法によっては車両の通行に支障が生じる恐れがあるため、基準となる排水施設高低差のすりつけ区間を長めにとる工法も合わせて提案しています。

おわりに

このたび改訂した冊子は、壊れにくい道づくりのために必要な情報を簡潔

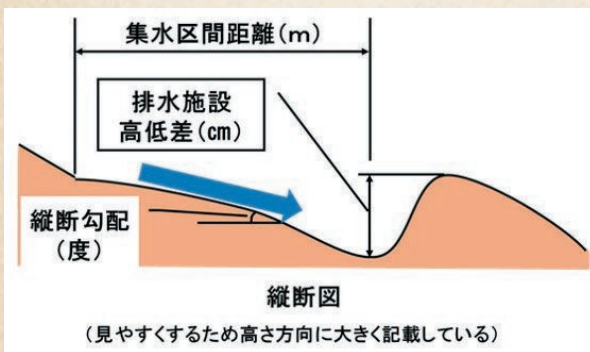


図1 土構造の横断排水施設における調査項目の模式図

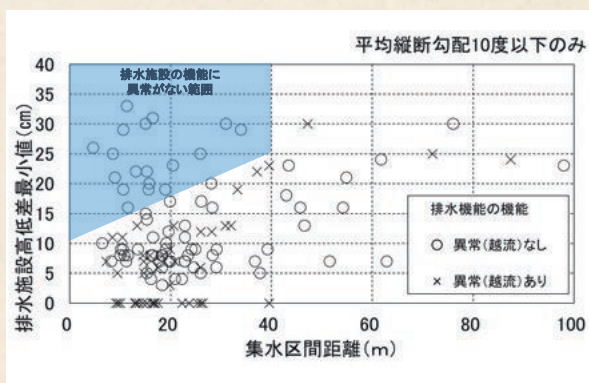


図2 土構造の横断排水施設における排水施設高低差(最小値)、集水区間距離と越流の有無の関係

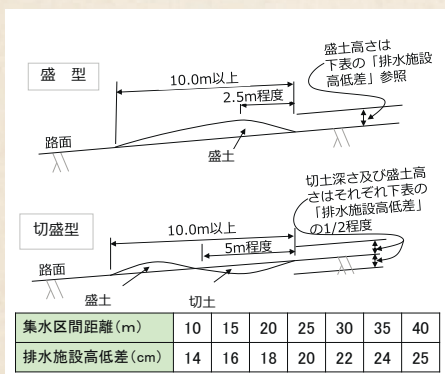


図3 縦断勾配10度以下の集水区間距離に応じた排水施設作設方法(案)

に示してあります。当所のホームページから無償でダウンロードできますので、ぜひ入手してご利用下さい。

詳しい内容を知りたい方は
TEL 0575-1331-2585

森林研究所まで

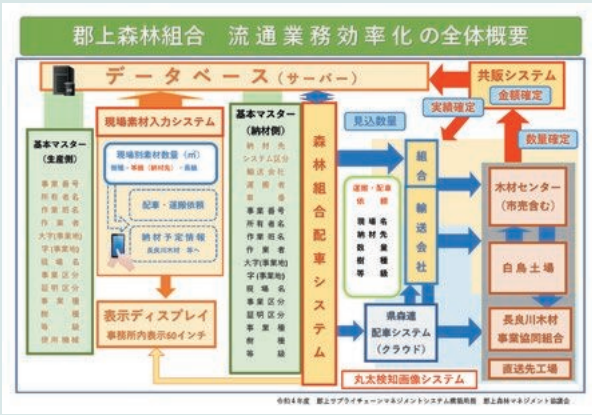


ICT/IOTの活用による 業務のシステム化について

木材生産流通の見える化

郡上農林事務所
林業普及指導員 森川 宣禎

はじめに
林業成長産業化地域構想の期間（H30～R4）に地域内の森林組合を含む林業事業者で高性能林業機械の導入が進んだこともあり、郡上市内の木材生産量は順調に増加しました。（H29…103千m³→R3…117千m³）



一方で、生産拡大により林産事業を担う森林組合職員の現場の管理等の事務手間が増え負担が課題となり、さらなる生産拡大のためには、業務を効率化し職員の労務軽減をすることが求められる状況でした。

林産業務の「見える化」の取組

作業班日報、機械日報、現場素材量の情報をリアルタイムで把握して、事務所と情報共有できる体制を構築するための「現場素材管理・日報管理システム」と機器を令和3年度に林業事業体ICT導入等支援事業補助金を活用して導入しました。

システム開発の検討の際、当初は取組の必要性が理解されず、闊達な議論ではなかったですが、郡上森林マネジメント協議会(以下「マネ協」という)の樋口事務局長が木材サプライチェーンマネジメントシステム(以下「SCMS」という)の重要性を説明されることで、徐々に具体的な検討となりました。農林事務所としても検討会に加わり資料作成などを支援しました。

このシステムと機器の導入により林産業務の「見える化」が可能となりました。



森林技術者による在庫入力状況



現場データ入力用PDA 20セット

木材流通の「見える化」の取組

現状では、木材生産現場からの配車については、FAXや電話連絡等のアナログ管理であり、目に見える形で管理できていない状態でした。

そこで、今後取扱量の増加にも対応出来るよう、現時点でのボトルネックとなっている木材運搬の効率化を図るため、配車管理をデジタル化して情報を共有し、「見える化」をするため、令和4年度に岐阜県林業・木材事業者活動強化支援事業(DX支援)補助金を活用して、WEB配車管理システムを導入しました。

システムの内容を決めるにあたり、流通に関わる関係者(森林組合、県森連、大型製材工場・長良川木材事業協同組合)で検討会により協議を行いました。検討会では、「木材生産量を増やしていくのに必要な今やることに意味がある。」中間土場からの確定した数字で配車する管理するシステム

※SCMSとは…サプライチェーン(木材生産から製材工場までの生産・流通過程)に物・金・情報の流れを結び付けて、全体で共有・連携し、局所最適ではなく、全体を統括して最適化を図る経営手法。

- ※SCMSのメリット
- リードタイム(供給時間)を短縮し、迅速な供給が可能になる。
 - 需要情報に基づいた生産により在庫の最適化が図れる。
 - 需要変動への素早い対応が可能になる。
 - 情報整理・生産管理・品質管理が可能になり、業務全体が「見える化」

システムの特徴

県内全域で実績のある県森連配車システムについては検知・検収済みの、数量確定した木材の運搬を前提として構築されていますが、郡上森林組合の場合は、素材生産現場から数量未確定のまま中間土場までの運搬が大半を占め、中間土場で専門職員が検知・検収を行なっています。

そのため、既存の県森連配車システムを利用したシステムでは郡上森林組合の取扱量の一部しか対応できず、配車の効率化を図るため、未確定数量での配車が可能な独自システムを開発しました。

システムの導入の効果

このシステムを導入することで、リードタイムの短縮が行える。現在は伐採完了後搬出完了まで最大約1ヶ月

はあったが、木材生産現場から未確定の数字で配車管理するシステムは画期的である」との意見があり、この配車管理システムの開発が関係者にとって重要な課題であることを共有できました。

その後は、森林組合の担当職員とソフト開発会社の間で具体的打合せを何度も繰り返し行いました。

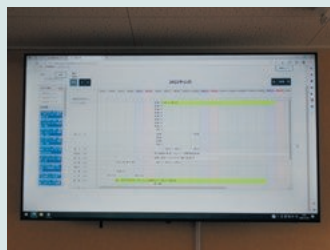
当初は、業務の軽減のためにソフトを導入するという意識から、「できるだけ配車をトラック配送業者にお任せする」という意識でした。しかし、ソフト開発業者から、「木材生産業務の進捗管理をより効率的に行うという目標のためには、配車計画を森林組合が主体的に行うことが必要である」とのアドバイスがあり、システムの設計に反映されました。その後、トラック配送業者に試験運用してもらい、ソフトが完成しました。

かかっている期間を1週間まで短縮出来ると考えています。

配車計画については現状では、概ね1ヶ月先までしか決まっておらず、あまり計画的ではない発注を行なっており、運送会社主体で工程を決めて運搬を行なっていました。このシステムを導入することにより3ヶ月先までの計画と、森林組合側が主体となって工程を組んだ計画を立てることができるようになりました。

配車手配についても、システム導入で配車の一元化が出来、職員労務の省力化が図れると考えています。

一番省力化出来た点としては、令和3年度に開発して令和4年度より稼働している「現場素材管理・日報管理システム」で、森林技術者がスマートフォンに入力した事業地の情報と素材生産量が、毎日日本所サーバーへデータが送られてきています。そのデータを深夜にCSVファイルで出力して、Web配車システムへ自動でアップロードする作業をWindowsのタスクスケジューラ(タイムスケジューリングソフト)で自動的に行うことにより、管理者が毎日1回スマートフォンデータの取り込みをすれば、新しい事業地の情報と最新の素材生産量が翌朝には反映されており、それを元に配車の割り振りを



情報共有用
本所65インチ液晶モニター

行っています。

また、事務所内の大型液晶モニターは、朝8時に電源が入り、夕方5時に自動で電源が切れるまで、配車情報が表示されており、「事務所での一元管理」と「情報の見える化」が実現しました。

おわりに

この木材生産流通の取組で具体的検討を行い、システムを完成することができたのは、県森連(共販所長OB)を擁するマネ協がオブザーバーとして協力していただけたおかげです。様々なアドバイスの中でも「林産と流通の2つのシステムを開発するのを1年で行うのではなく、実際に使う現場の人の理解を得るためにも2年がかりで行うことが必要である」というアドバイスが大きかったので、林業の現場の課題に取り組み際には、現場の理解を得ながらじっくり丁寧に対応することが大切であることを学びました。

今回のシステム導入により、木材生産現場の「見える化」が進みました。このことにより生産流通のボトルネックが見えることで、早期に対応することができ、進捗管理の精度が上がることに期待できます。

今後は、木材生産量の増加とともに、木質バイオマス発電所の稼働もあり、輸送能力の確保がさらに必要になっていきます。このシステムによりトラックの配送計画を中長期的に把握管理することができるようになり、協力いただける配送業者を増やし、輸送能力を安定確保することに期待しています。

●詳しい内容を知りたい方は

TEL0575-671111(内線251)

郡上農林事務所まで

スマート林業通信 36

アシストスーツ体験会

3月7日～9日に当校の技術普及係と連携してアシストスーツの体験会を行いました。

アシストスーツとは重量物の運搬や歩行運動など体に加わる負担を軽減するための装置で、技術普及係がスマート農業推進センターから借りて、きのこ生産や林業でも活用できないかと体験会を開催しました。

借りたアシストスーツは4種類。モーターで駆動するタイプから空気圧のみで電源不要かつ防水仕様のものもあります。価格はモーターで駆動する約120万円の商品から、動力不要の約15万円の商品まで、価格帯も様々です。

どの機種も本体部を背中に背負い、大腿部をベルト等で固定して動きをアシストしてくれます。装着した感想として、重量物を持ち上げるためのものというより、長時間の中腰作業時の疲労軽減に効果があります。森林内の林業作業で荷物を上げ下げするだけの作業は少ないため、これらのアシスト

スーツの機能を十分に発揮させる活用は難しいと感じました。

装着すると山をスイスイ登れるとか、腕で支えなくても丸太を担げるなど、林業専用のアシストスーツの開発が望まれます。

写真は当校森林技術開発・支援センターの職員による体験会。遊んでいるように見えますが、真剣に情報収集しています。



●詳しい内容を知りたい方は

TEL0575-3512535

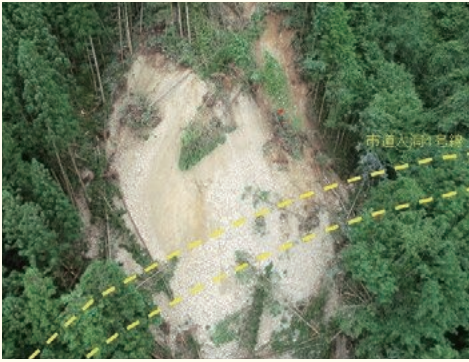
森林文化アカデミー 技術普及係または
スマート林業推進係まで

岐阜森林管理署長としての抱負

岐阜森林管理署長 駒瀬 勉

4月に林野庁本庁から岐阜森林管

理署長として参りました駒瀬です。どうぞよろしくお願ひします。出身地は長野県です。岐阜県内での勤務は初めてとなります。本庁の前は、中部森林管理局に勤務しており、平成十八年に下呂市で開催された全国植樹祭に携わったこと、仕事や会議等で岐阜県内には何度か訪れたこともあり、旧知の方も多く、この岐阜県で仕事ができることを大変うれし



令和3年7月に発生した山腹崩壊により市道が埋没(大洞国有林)

く思っています。

さて、岐阜森林管理署長としての抱負ですが、まず、第一は、「国土強靱化5か年加速化対策への取組と治山対策の推進」です。

近年、気候変動の影響により気象災害が激甚化・頻発化し、岐阜県内においても、災害の発生が多発しているところ です。このため、山地災害危険地区や氾濫した河川上流域等において、森林の防災・保水機能を発揮させる間伐等の森林整備や治山施設の整備・強化等による流木・土石流・山腹崩壊抑制対策を実施します。また、山村地域等における災害時に備えた特に重要な林道の整備・強化、既存施設の長寿命化対策についても推進します。

第二は、「野生鳥獣被害対策の推進」

です。当署においても、鳥獣保護管理施策や農業被害対策等との連携を図りつつ、地域協議会等に積極的に参画



職員による捕獲(くくり罠設置)

していきます。特に、当署職員の捕獲(くくり罠)等による個体数調整に努めるとともに、センサーカメラによる生息確認を引き続き実施します。また、金華山のイノシシ対策についても、周辺での目撃情報が多く寄せられ、人的被害が懸念されることから、岐阜大学や岐阜市等と連携して様々な被害防止対策に取り組みます。

第三は、「事業の低コスト化・生産性向上の推進と民有林への普及・定着」です。

現在、計画的な主伐及び主伐後の確実な更新を図るとともに、伐採から再造林・保育に至る収支のプラス転換を可能とする「新しい林業」の実践に向けて、署を挙げて取り組んでいるところ です。この内、造林事業にあつては、伐採・造林一貫作業シ

ステムの更なる推進、下刈り回数削減、低コストモデルの実証に加え、エリートツリーの普及啓発に努めます。生産事業にあつては、素材生産の生産性向上を図るとともに、末木枝条等の未利用材の搬出と販売促進等を通じた造林コストの縮減を進めます。その他、民有林関係者を含めた現地検討会の開催等を通じ、優れた成果事例の普及に取り組みます。

第四は、「民有林と連携した森林整備と民有林行政への支援の推進」です。

管内の5つの地域で森林整備推進協定を締結していますが、設置した森林共同施業団地内で民有林と一体となった路網の整備、計画的な間伐を推進します。また、局で実施する基礎研修や各署等で開催される現地検討会等を通じて、市町村林務担当職員の森林・林業に関する能力向上など、民有林における人材育成を支援していきます。

以上が、署長として取り組んでまいります。引続き地域との連携を密にし、地元自治体からの要望を聞きながら、岐阜森林管理署として地元へ貢献できるように様々な事業に取り組んで参りたいと考えていますので、今後ともよろしくお願ひします。



令和5年度

山地災害防止キャンペーン



近年、集中豪雨による山地災害が全国各地で発生し、社会活動に甚大な影響を及ぼしています。岐阜県でも昨年8月の集中豪雨により、岐阜、西濃地域を中心に山地災害が発生し、現在も災害復旧に取り組んでいます。こうした状況から、県民の皆さんに山地災害に対する防災意識を高め、林野庁、県及び市町村では、令和5年5月20日(土)から6月30日(金)にかけて「山地災害防止キャンペーン」を実施しています。

キャンペーン期間中は、県の庁舎や市町村の公共施設にポスターを掲示し、山地災害への備えを呼びかけるとともに、市町村の広報誌に関連記事を掲載しています。

また、キャンペーン関連行事の一環として、山地災害防止標語及び写真コンクールが実施されますので、たくさんの応募をお願いします。

【標語及び写真コンクールの応募先及び問い合わせ先】
 (一社)日本治山治水協会 標語・写真コンクール係
 TEL 03-3581-2288 FAX 03-3581-1410



令和5年度キャンペーンポスター

●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8526 森林保全課治山係まで

森林・林業関係イベントカレンダー(6~7月)

林業者向け

開催日	行事名等	内容等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	場所 申込(問合せ)先/TEL
6月14日(水)~ 6月16日(金)	伐木等の業務 (チェーンソー)に係る 特別教育	●講習時間: 14日 学科 8:50~17:10 15日 学・実 8:50~12:00 16日 実技 8:30~17:40 ●申込: 開催日の10日前まで ●受講料: 23,870円(本代含む)(振込み) ●定員: 30名(定員になり次第締め切ります。)	14日(学科) 15日(学・実) ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東 2-5-6) 16日(実技) 県森連岐阜林産物共販所(関市倉知字物見山)(予定) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
6月20日(火)~ 6月21日(水)	走行集材機械の運転業務 特別教育	●講習時間: 20日 学科 9:00~16:00 21日 実技 9:00~16:00 ●申込: 開催日の10日前まで ●受講料: 46,200円(本代含む)(振込み) ●定員: 30名(定員になり次第締め切ります。) (学科及び実技一部免除者を含む。実技講習は10名単位の開催となりますので実技受講者が10名以上の場合は翌日になりますのでお問合せ下さい。)	20日(学科) ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東 2-5-6) 21日(実技) 関市地内山林(予定) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
7月4日(火)~ 7月7日(金)	フォークリフト 運転技能講習 受講資格 自動車普通運転 免許所持者	●講習時間: 1日目 学科 8:45~17:05 学科試験 17:10~18:10 2~4日目 実技・試験 8:00~17:30 ●申込: 開催日の20日前まで ●受講料: 32,450円(本代含む)(振込み) ●定員: 20名(定員になり次第締め切ります。)	(学科)伊自良中央公民館(山県市大門 850-67) (実技)ぎふ農協旧伊自良共選場(山県市洞田 127-5) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
7月11日(火)	刈払機取扱作業 安全衛生教育	●講習時間: 学科 8:55~15:20 実技 15:30~16:30 ●申込: 開催日の10日前まで ●受講料: 11,550円(本代含む)(振込み) ●定員: 50名(定員になり次第締め切ります。)	恵那建設会館(恵那市大井町 2087-276) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
7月12日(水)~ 7月14日(金)	伐木等の業務 (チェーンソー)に係る 特別教育	●講習時間: 12日 学科 8:50~17:10 13日 学・実 8:50~12:00 14日 実技 8:30~17:40 ●申込: 開催日の10日前まで ●受講料: 23,870円(本代含む)(振込み) ●定員: 50名(定員になり次第締め切ります。)	12日(学科) 13日(学・実) 恵那建設会館(恵那市大井町 2087-276) 14日(実技) 加子母森林組合(中津川市加子母 4872-5) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195

コラム

GWの5月5日、石川県七尾市能登島にある「のどしま水族館」に行ってきました。開館に合わせて入場し、昼食を食べてから帰路につきました。14時頃、国道156号線の山道を走行していると、緊急地震速報のアラートが車内に響き渡りました。先ほどまで居た石川県能登島で最大震度6強(のどしま水族館は震度4)の地震が発生していました。

帰宅する時間が遅れていたら、地震の被害にあっていたかもしれないと考えると恐怖の気持ちでいっぱいになりました。

また、いつ何処で大きな地震が発生するか分からない事、東海地方でも大地震が発生する可能性が高い事を再認識させられ、防災グッズの用意をしないとイケないと考えさせられるGWでした。

「森林のたより」編集委員 小川 友梨

- イベント情報** 7月1日発行
- 連載**
- 山の歳時記(215)
 - 山のおじゃまむし(384)
- 地域の人**
- 清流と森と親しむ**
- 森林と人を活かす知恵(126)
- 木と親しむ**
- 岐阜県の公共木造建築(124)
- 清流の国ぎふ森林・環境税**
- 森林・林業技術**
- 研究・普及コーナー
- 市況情報** **その他**
- 7月号
予定

木材市場

木材市況 県森連 岐阜・飛騨・東濃林産物共販所 単位:円(1㎡当たり)

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	気配	
第1823回 岐阜共販所	すぎ	3 m	16~18cm	15,700	—	→	
		4 m	16~18cm	15,000	—	→	
			20~22cm	16,000	—	→	
			24~28cm	16,000	—	→	
		30cm以上	14,000	23,000	→		
	6 m	16~18cm	—	—	→		
	5月16日	ひのき	3 m	16~18cm	20,500	—	↘
			20cm以上	18,800	—	↘	
		4 m	16~22cm	20,300	—	↘	
			24~28cm	19,000	—	↘	
30cm以上			18,700	30,000	→		
6 m	16~18cm	—	—	→			
第1410回 飛騨共販所	すぎ	3 m	16~22cm	15,000	—	→	
		4 m	24~28cm	16,000	—	→	
			30cm以上	15,000	21,600	→	
	ひのき	3 m	16~18cm	20,500	—	↘	
		4 m	20~22cm	19,800	—	↘	
			24~28cm	19,000	—	↘	
			30cm以上	20,000	60,000	→	
		6 m	16~20cm	26,000	—	↘	
	5月17日	ひめこ	4 m	24~28cm	20,000	—	→
			30cm以上	15,000	23,800	→	
5 m		30cm以上	—	—	→		
くり	4 m	24cm以上	15,000	33,300	→		
第1742回 東濃共販所	すぎ	3 m	16~22cm	15,500	—	→	
		4 m	24~28cm	15,800	—	→	
			30cm以上元	15,000	22,000	→	
	ひのき	3 m	16~22cm	20,000	—	→	
			24~28cm	18,500	—	→	
			30cm以上元	25,000	—	→	
		4 m	13cm以下	10,000	—	→	
			24~28cm	18,500	—	↘	
			30cm以上元	25,000	37,000	→	
	5月11日	まつ	4 m	22~28cm梁	—	—	→
30cm以上元			11,000	—	→		

※単価は直材価格、但し平均値は並材二番玉価格。気配は、前回市との比較。

【商況】

スギは全体的に軟化気配の中、様子見で相場は弱含み。スギ4m元木、尺上良材は応札多数。スギラミナ向け3m・4m材は弱保合。ヒノキ元木、尺上良材3m・4m役物取りは、引き合いは強いが、3m柱取り、4m土台取りは値下げに転じている。製紙向けパルプ材、発電向け未利用材ともに原木不足感が強く需要高。(岐阜)

スギ、ヒノキは横ばいで推移。特にヒノキ4m×30cm以上、スギ4m×40cm以上に応札旺盛。ヒメコマツは前回に引き続き応札旺盛。広葉樹はどの樹種も相変わらず引き合いが強く特にホウに人気が集まった。高値はミズ×2.2m×34cm@50,000円、ミズ×4.8m×36cm@70,000円、カエデ4m×40cm@55,000円、マクルミ2.2m×36cm@40,000円、ナラ5m×40cm@45,500円、サクラ2m×36cm@41,000円(飛騨)

ヒノキ元木良材3m・4m尺上、40cm以上役物は活発な応札はあるものの、当用買いが強い傾向。3m柱向け(14cm~24cm)、4m土台・中目は、年度当初から固持してきた価格が維持できず値下りの展開。スギ4m中目尺上元木良材も水上がりの時期に入り積極的な手当てが進まず当用買いに終始した。3m・4m構造材向けは市中製品価格軟化の影響を受け弱含みで推移。合板向けについては、製品荷動きが鈍く弱基調、特にヒノキ、カラマツは原木受入調整が一段と厳しく継続している。(東濃)

製品卸売標準価格 (4月期)

単位:円

樹種	用途	寸法(mm)			等級	m ³ 当り 価格	(本枚)単価	前月 比較
		長	巾	高				
スギ	柱	3000	105	105	1等	80,000	(2,646)	↘
	間柱	3000	105	30	1等	80,000	(756)	↘
ヒノキ	土台	4000	105	105	特等	60,000	(2,646)	↘
	柱	3000	120	120	特等	80,000	(3,456)	↘
W ウッド 材	柱	6000	120	120	特等	165,000	(14,256)	→
		3000	105	105	国産5層	97,000	(3,200)	↘
		3000	120	120	国産5層	102,000	(4,400)	↘

※日刊木材新聞調べ(名古屋標準相場 全てKD材)

外材市況 (4月期)

単位:100円(1㎡当たり)

樹種	規格	価格	前月比較
米松	SSタイプ	468	→
	コスト(目荒)	450	↘
米楸	ヘム(アラスカ産)	468	→
米ひば	ポール	—	—

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場(径級は30cm上、米松コストのみ大阪相場)

これってなあに? ~ 木材用語 ~

インボイス

送り状。Commercial Invoice(商業送り状)とOfficial Invoice(公用送り状)があり、単にインボイスという場合には通常前者を指す。品名、数量、価格、契約条件、契約単価などが記載されている。

(参考)日刊木材新聞社 木材・建材用語辞典